平成 28 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的	文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので，日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し，国語施策の立案に資するとともに，国民の国語に関する興味・関心を喚起する。
調査対象	全国 16 歳以上の男女
調査時期	平成 29 年2月～3月
調査方法	一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施
調査結果	調査対象総数　3,566 人 有効回答数(率)　2,015 人(56.5%)

文化庁

備　考　・百分比は各問いの回答者数を 100％として算出し，小数点第2位を四捨五入したため，百分比の合計が 100％にならない場合がある。また，百分比の差を示す「ポイント」については，小数点第1位を四捨五入して示した。

目　　次

Ⅰ　コミュニケーションの在り方・言葉遣いについて

◆ コミュニケーション能力は重要か……＜問１＞…3
◆ コミュニケーション能力とはどのようなものか……＜問２＞…3
◆ 相手との伝え合いにおいてどちらを重視しているか……＜問３＞…4
◆ 意見の表明や議論などについてどのような意識を持っているか……＜問４＞…4
◆ きちんとした言葉遣いができないと，社会から認めてもらえないという雰囲気を感じるか…＜問５＞…5
◆ 言葉や言葉の使い方に関して，困っている，気になっているのは，どんなことか……＜問６＞…6
◆ これからの時代，特に必要だと思う言葉に関わる知識や能力は何か……＜問７＞…7

Ⅱ　相手に配慮したコミュニケーション

◆ コミュニケーションにはどのような態度が大切か……＜問８＞…8
◆ 自分と考え方の違う人との意見交換に必要な態度は何か……＜問９＞…8
◆ 敬語を使うことが，人間関係を作っていくのに，かえってマイナスになると感じることがあるか…＜問 10＞…9
◆ 敬語を使うことが，人間関係を作っていくのに，マイナスと感じるのはどのようなときか…＜問 10（付）＞…9
◆ コミュニケーションを図るために歩み寄る努力をするのはどちらの側か……＜問 11＞…10
◆ 定型の挨拶の言葉だけで十分だと考えるか……＜問 12＞…10
◆ 具体的な三つの場面において，挨拶をするか……＜問 13＞…11
◆ 受け入れやすいと感じる相手の話し方はどちらか……＜問 14＞…12

Ⅲ　情報化の中でのコミュニケーション

◆ いわゆる「炎上」を目撃した際に書き込みや拡散をするか……＜問 15＞…13
◆ いわゆる「炎上」という現象を好ましいと思うか……＜問 16＞…13
◆ 最も親しい人に，自分の本音を伝えやすい手段・方法は何か……＜問 17＞…14
◆ 最も親しい人に対して，誤解やトラブルを招きやすいと感じる手段・方法は何か……＜問 18＞…15
◆ 初対面の相手に対して，依頼する方法は何か……＜問 19＞…16

Ⅳ　書き言葉のコミュニケーション

◆ 文字で何かを伝える際，重視することは何か……＜問 20＞…16
◆ 国や自治体が発信した情報を得るに当たって，どんな媒体で読みたいか……＜問 21＞…16
◆ 国や自治体がお知らせなどの文章を書く際に，配慮してほしいことは何か……＜問 22＞…17

Ⅴ　具体的な場面における言葉遣い

◆ ふだん，どのような言い回しをするか……＜問 23＞…18
◆ 改まった場で，それほど親しくない相手をどう呼ぶか……＜問 24＞…19
◆ 気になる言い方か……＜問 25＞…20

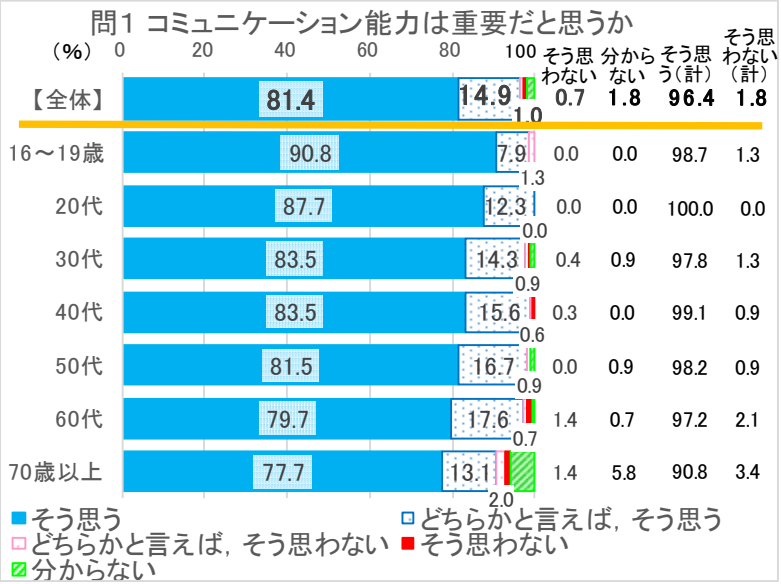
Ⅵ　新しい表現や，慣用句等の意味・言い方

◆ 聞いたこと，使ったことがある表現か……＜問 26＞…21
◆ どちらの意味だと思うか……＜問 27＞…23
◆ どちらの言い方を使うか……＜問 28＞…24

Ⅰ　コミュニケーションの在り方・言葉遣いについて

＊報告書のページを表す。

コミュニケーション能力は重要か＜問１＞（P. ３＊）
―「そう思う(計)」は，全ての年代で９割以上。特に，20 代は 100%が「そう思う(計)」と回答 ―



〔 全 体 〕

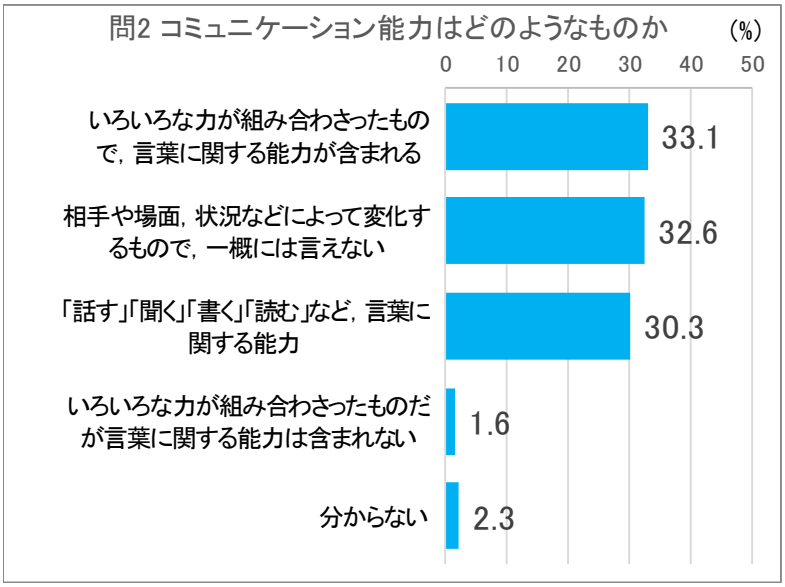
社会生活においては，「コミュニケーション能力」が重要であるかという意見について，どのように思うかを尋ねた。

「そう思う」(81.4%)と「どちらかと言えば，そう思う」(14.9%)を合わせた「そう思う(計)」は，96.4%となっている。一方，「そう思わない」(0.7%)と「どちらかと言えば，そう思わない」(1.0%)を合わせた「そう思わない(計)」は 1.8%となっている。

〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「そう思う(計)」は，全ての年代で9割を超えており，特に 20 代では 100%となっている。また，「そう思う」は，年代が下がるほど高くなる傾向があり，16～19 歳では 90.8%となっている。

コミュニケーション能力とはどのようなものか＜問２＞（P. ５）
―「言葉に関する能力」が関わると考える人は少なくとも６割以上 ―



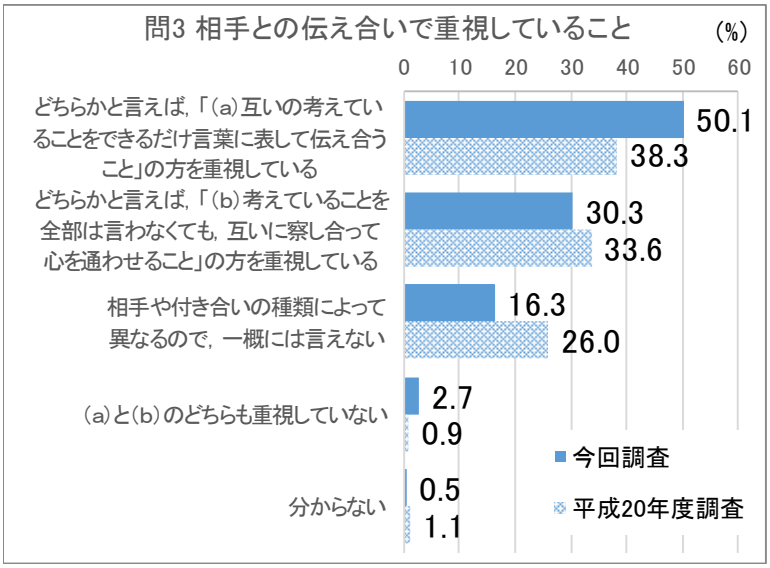
〔 全 体 〕

「コミュニケーション能力」とは，どのようなものであると考えるかを尋ねた。

「いろいろな力が組み合わさったもので，言葉に関する能力が含まれる」が 33.1%と最も高く，以下，「相手や場面，状況などによって変化するもので，一概には言えない」が 32.6%，「「話す」「聞く」「書く」「読む」など，言葉に関する能力」が 30.3%となっている。

一方，「いろいろな力が組み合わさったものだが，言葉に関する能力は含まれない」は 1.6%となっている。

相手との伝え合いにおいてどちらを重視しているか＜問３＞（P. ７）
―「(a)言葉に表して伝え合うこと」が約5割，「(b)察し合って心を通わせること」が約3割―



〔 全 体 〕

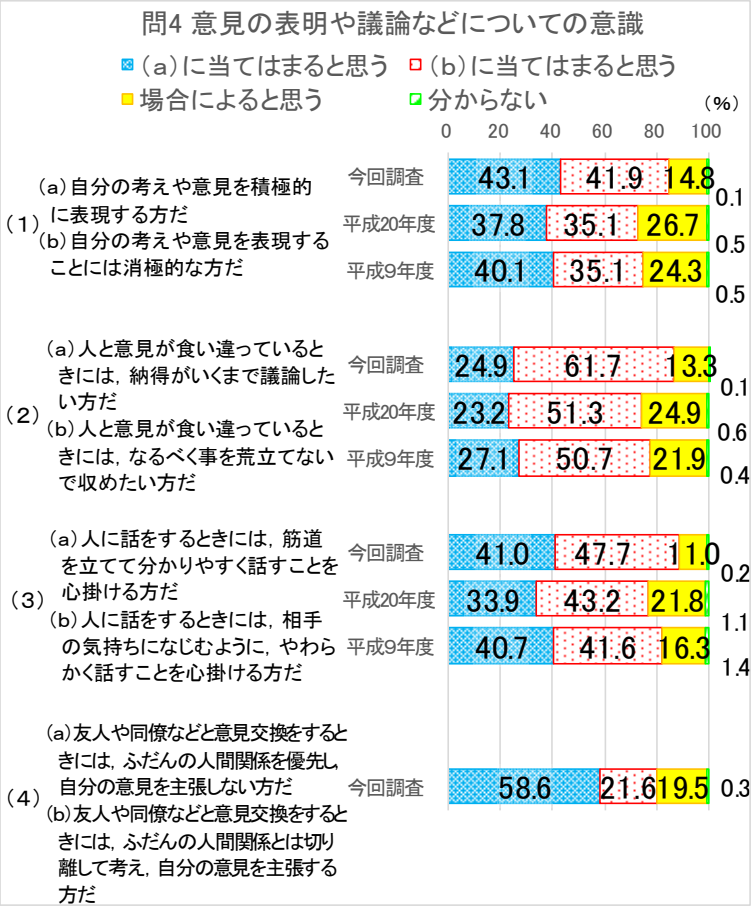
相手との伝え合いで重視していることについて，「(a)互いの考えていることをできるだけ言葉に表して伝え合うこと」と「(b)考えていることを全部は言わなくても，互いに察し合って心を通わせること」のどちらの方を重視しているかを尋ねた。

「どちらかと言えば，「(a)互いの考えていることをできるだけ言葉に表して伝え合うこと」の方を重視している」が 50.1%，「どちらかと言えば，「(b) 考えていることを全部は言わなくても，互いに察し合って心を通わせること」の方を重視している」が 30.3%となっている。

〔過去の調査との比較〕

過去の調査結果（平成 20 年度）と比較すると，「どちらかと言えば，「(a)互いの考えていることをできるだけ言葉に表して伝え合うこと」の方を重視している」は，20 年度調査から今回調査に掛けて 12 ポイント増加している。「どちらかと言えば，「(b) 考えていることを全部は言わなくても，互いに察し合って心を通わせること」の方を重視している」は，20 年度調査から今回調査に掛けて3ポイント減少している。

意見の表明や議論などについてどのような意識を持っているか＜問４＞（P. ９）
―なるべく事を荒立てず，相手の気持ちになじむよう話し，人間関係を優先し自分の意見を主張しない傾向―



〔 全体・過去の調査との比較 〕

意見の表明や議論などについての意識はどうか，四つの事柄についてそれぞれ二つの内容を示し，どちらに当てはまると思うかを尋ねた。

(1)考えや意見を積極的に表現する方か

「(a)自分の考えや意見を積極的に表現する方だ」と「(b)自分の考えや意見を表現することには消極的な方だ」のどちらに当てはまると思うかを尋ねた。

「(a)自分の考えや意見を積極的に表現する方だ」が 43.1%，「(b)自分の考えや意見を表現することには消極的な方だ」が 41.9%，「場合によると思う」が 14.8%となっている。

過去の調査結果（平成 9，20 年度）と比較すると，平成 20 年度調査から今回調査に掛けて「(a)自分の考えや意見を積極的に表現する方だ」は5ポイント，「(b)自分の考えや意見を表現することには消極的な方だ」は7ポイントそれぞれ増加しているが，「場合によると思う」は 12 ポイント減少している。

(2)納得がいくまで議論したい方か

「(a)人と意見が食い違っているときには，納得がいくまで議論したい方だ」と「(b)人と意見が食い違っているときには，なるべく事を荒立てないで収めたい方だ」のどちらに当てはまると思うかを尋ねた。

「(a)人と意見が食い違っているときには，納得がいくまで議論したい方だ」が 24.9%，「(b)人と意見が食い違っているときには，なるべく事を荒立てないで収めたい方だ」が 61.7%，「場合によると思う」が 13.3%となっている。

過去の調査結果(平成 9，20 年度)と比較すると，平成 20 年度調査から今回調査に掛けて「(b)人と意見が食い違っているときには，なるべく事を荒立てないで収めたい方だ」は10ポイント増加しているが，「場合によると思う」は 12 ポイント減少している。

(3)話の仕方についての心掛け

「(a)人に話をするときには，筋道を立てて分かりやすく話すことを心掛ける方だ」と「(b)人に話をするときには，相手の気持ちになじむように，やわらかく話すことを心掛ける方だ」のどちらに当てはまると思うかを尋ねた。

「(a)人に話をするときには，筋道を立てて分かりやすく話すことを心掛ける方だ」が 41.0%，「(b)人に話をするときには，相手の気持ちになじむように，やわらかく話すことを心掛ける方だ」が 47.7%，「場合によると思う」が 11.0%となっている。

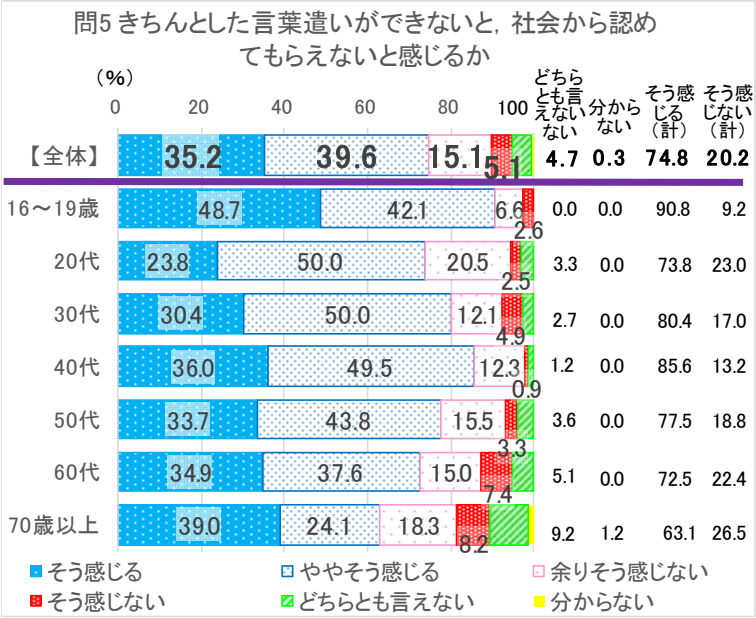
過去の調査結果(平成 9，20 年度)と比較すると，平成 20 年度調査から今回調査に掛けて「(a)人に話をするときには，筋道を立てて分かりやすく話すことを心掛ける方だ」は7ポイント，「(b)人に話をするときには，相手の気持ちになじむように，やわらかく話すことを心掛ける方だ」は5ポイントそれぞれ増加しているが，「場合によると思う」は 11 ポイント減少している。

(4)人間関係を優先し，自分の意見を主張しない方か

「(a)友人や同僚などと意見交換をするときには，ふだんの人間関係を優先し，自分の意見を主張しない方だ」と「(b)友人や同僚などと意見交換をするときには，ふだんの人間関係とは切り離して考え，自分の意見を主張する方だ」のどちらに当てはまると思うかを尋ねた。

「(a)友人や同僚などと意見交換をするときには，ふだんの人間関係を優先し，自分の意見を主張しない方だ」が 58.6%，「(b)友人や同僚などと意見交換をするときには，ふだんの人間関係とは切り離して考え，自分の意見を主張する方だ」が 21.6%，「場合によると思う」が 19.5%となっている。

きちんとした言葉遣いができないと，社会から認めてもらえないという雰囲気を感じるか＜問５＞ (P. 18)
―「そう感じる(計)」は，７割台半ば ―



〔 全 体 〕

きちんとした言葉遣いができないと，社会から認めてもらえないという雰囲気があると感じるか，それとも，感じないかを尋ねた。

「そう感じる」(35.2%)と「ややそう感じる」(39.6%)を合わせた「そう感じる(計)」は，74.8%となっている。一方，「そう感じない」(5.1%)と「余りそう感じない」(15.1%)を合わせた「そう感じない(計)」は 20.2%となっている。

〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「そう感じる(計)」は，16～19 歳と 30～40 代で他の年代より高く8割を超えている。「そう感じない(計)」は，70 歳以上で 26.5%と最も高く，次いで 20 代(23.0%)，60 代(22.4%)と続いている。

言葉や言葉の使い方に関して，困っている，気になっているのは，どんなことか＜問6＞(P.20)
―「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある」,「外来語･外国語の意味がわからないことがある」,「年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない」がそれぞれ9～16 ポイント増加―

	今回調査	22 年度	18 年度	15 年度	11 年度
流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある	55.5	41.8	42.5	42.7	42.4
外来語･外国語の意味が分からないことがある	55.0	39.1	43.1	46.0	45.8
辞書を引かなければ書けない漢字がたくさんある	31.6	33.7	34.2	31.2	34.2
年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない	30.8	22.2	22.3	23.8	23.5
正しい文章の書き方がよく分からない	22.2	20.4	19.1	15.8	18.9
人に対する話し方が上手ではない	22.0	19.5	19.3	18.1	16.5
読めない漢字にたくさん出合う	21.5	21.9	20.5	19.5	19.4
送り仮名の付け方が分からないことがある	19.3	17.4	17.2	17.6	18.5
新聞を読んでも，難しい言葉が多くて意味がよく分からない	17.0	17.6	18.6	21.5	22.8
敬語がうまく使えない	16.7	17.2	18.6	14.9	18.8
特に困っていることや気になっていることはない	8.4	13.3	11.4	11.4	12.3

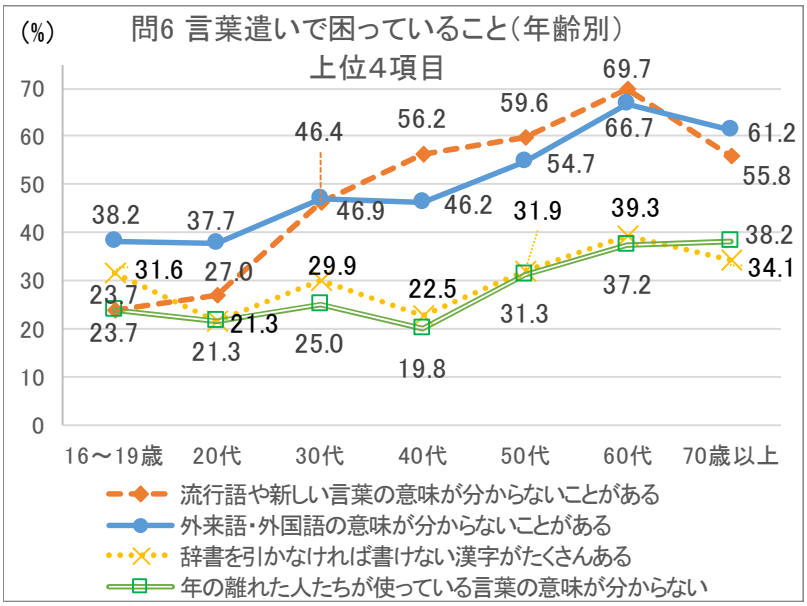
〔 全 体 〕

言葉や言葉の使い方に関して，困っていることや気になっていることは何かを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある」が 55.5％と最も高く，次いで「外来語･外国語の意味が分からないことがある」が 55.0％となっている。以下，「辞書を引かなければ書けない漢字がたくさんある」(31.6％)，「年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない」(30.8％)が3割強と続いている。

〔 過去の調査との比較 〕

過去の調査結果(平成 11，15，18，22 年度)と比較すると，「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある」，「外来語･外国語の意味が分からないことがある」は，過去4回の調査でも上位2位までに挙げられているが，平成 22 年度調査から今回調査に掛けて順に 14 ポイント，16 ポイント増加している。また，「年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない」は，平成 22 年度調査から今回調査に掛けて9ポイント増加している。



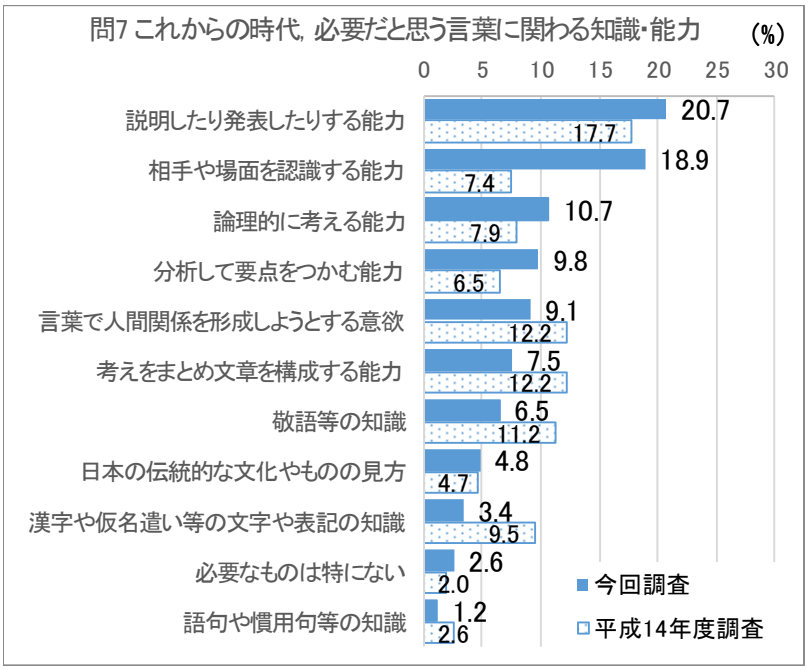
〔 年 齢 別 〕

回答の割合が高かった四つの選択肢を順に年齢別に見ると，「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある」は，16～19 歳(23.7％)から 60 代(69.7％)に掛けて，年代が上がるに従って割合が高くなっている。

「外来語･外国語の意味が分からないことがある」は，年代が上がるに従って割合が高くなる傾向があり，特に 60 代以上で他の年代より高く6割台となっている。

「辞書を引かなければ書けない漢字がたくさんある」は 60 代で，「年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない」は 60 代以上で，それぞれ他の年代より高く3割台後半となっている。

これからの時代，特に必要だと思う言葉に関わる知識や能力は何か＜問７＞（P. 23）
―「相手や場面を認識する能力」が 12 ポイント増加，
一方，「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」は 6 ポイント減少 ―



〔 全 体 〕

社会生活を送っていく上でどのような言葉に関わる知識や能力などがこれからの時代，特に必要であると思うかを尋ねた。

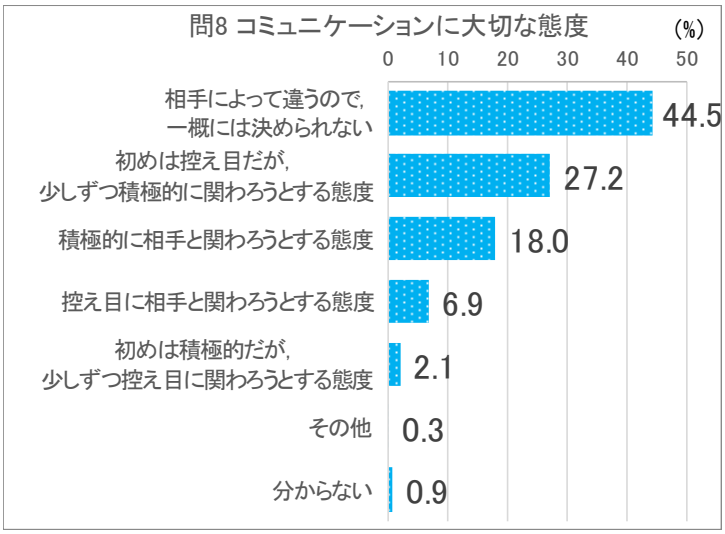
「説明したり発表したりする能力」が 20.7％と最も高く，次いで「相手や場面を認識する能力」が 18.9％となっている。

〔過去の調査との比較〕

過去の調査結果（平成 14 年度）と比較すると，「相手や場面を認識する能力」は 12 ポイント増加，「説明したり発表したりする能力」「論理的に考える能力」「分析して要点をつかむ能力」は，それぞれ3ポイント増加している。一方，「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」は3ポイント，「考えをまとめ文章を構成する能力」は5ポイント，「敬語等の知識」は5ポイント，「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」は6ポイントそれぞれ減少している。

Ⅱ　相手に配慮したコミュニケーション

コミュニケーションにはどのような態度が大切か＜問８＞（P. 26）
―「相手によって違うので，一概には決められない」が最も高く，４割台半ば ―

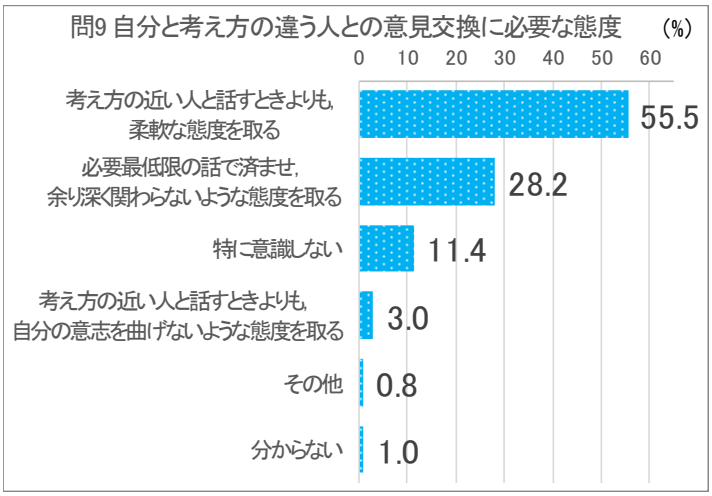


〔 全 体 〕

人と実際に会ってコミュニケーションを図るときには，どのような態度が大切だと思うかを尋ねた。

「相手によって違うので，一概には決められない」が 44.5%と最も高く，次いで，「初めは控え目だが，少しずつ積極的に関わろうとする態度」(27.2%)，「積極的に相手と関わろうとする態度」(18.0%)，「控え目に相手と関わろうとする態度」(6.9%)，「初めは積極的だが，少しずつ控え目に関わろうとする態度」(2.1%)となっている。

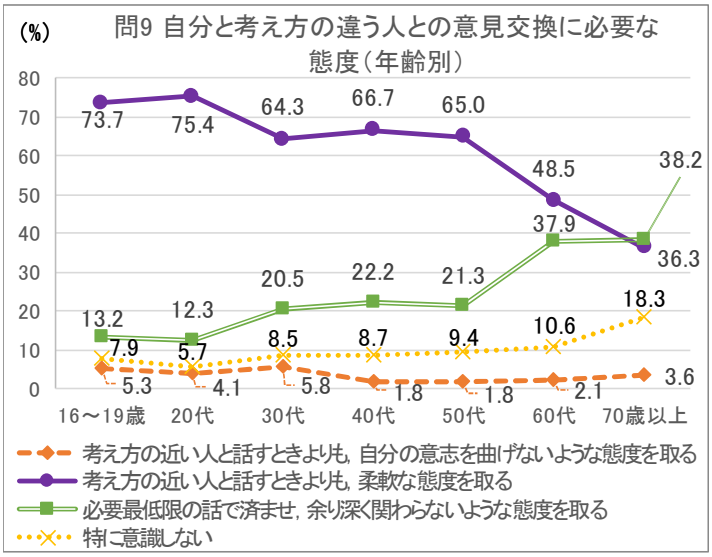
自分と考え方の違う人との意見交換に必要な態度は何か＜問９＞（P. 28）
―「考え方の近い人と話すときよりも，柔軟な態度を取る」は年代が下がるほど高くなる傾向 ―



〔 全 体 〕

自分と明らかに考え方の違う人と意見交換するとしたら，どのような態度を取る必要があると思うかを尋ねた。

「考え方の近い人と話すときよりも，柔軟な態度を取る」が 55.5%と最も高く，次いで「必要最低限の話で済ませ，余り深く関わらないような態度を取る」が 28.2%となっている。以下，「特に意識しない」が 11.4%，「考え方の近い人と話すときよりも，自分の意志を曲げないような態度を取る」が 3.0%となっている。

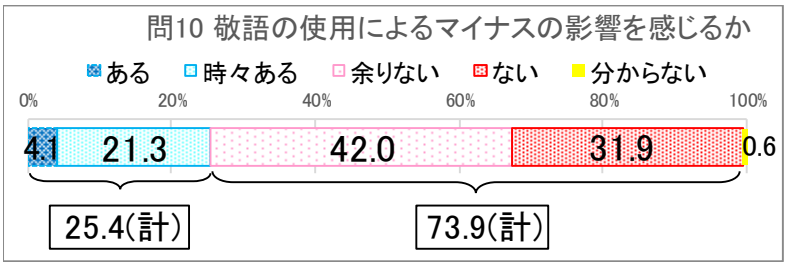


〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「考え方の近い人と話すときよりも，柔軟な態度を取る」は，20 代以下で7割台半ば，30～50 代で6割台半ば，60 代以上で5割以下となっており，年代が上がるに従って低くなる傾向にある。

一方，「必要最低限の話で済ませ，余り深く関わらないような態度を取る」は，20 代以下で1割台前半，30～50 代で2割強，60 代以上で3割台後半となっており，年代が上がるに従って高くなる傾向にある。

敬語を使うことが，人間関係を作っていくのに，かえってマイナスになると感じることがあるか＜問 10＞（P.30）
―マイナスになると感じることは「ない（計）」と７割台前半が回答 ―

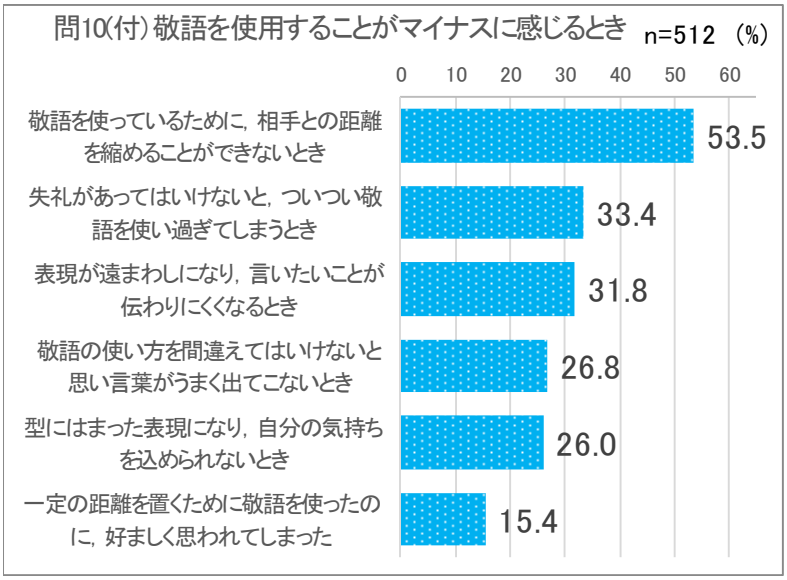


〔 全 体 〕

敬語を使うことが，人間関係を作っていくのに，かえってマイナスになってしまうと感じることがあるかを尋ねた。

「ある」(4.1%)と「時々ある」(21.3%)を合わせた「ある(計)」は 25.4%となっている。一方，「ない」(31.9%)と「余りない」(42.0%)を合わせた「ない(計)」は 73.9%となっている。

敬語を使うことが，人間関係を作っていくのに，マイナスと感じるのはどのようなときか＜問10(付)＞（P.32）
―「敬語を使っているために，相手との距離を縮めることができないとき」が5割台半ばと最も高い ―

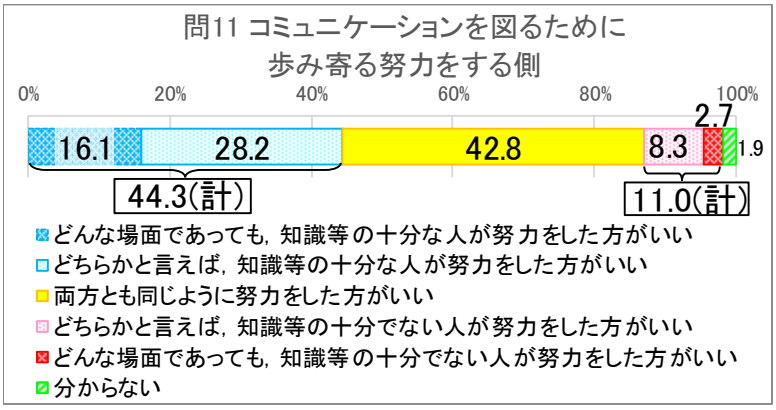


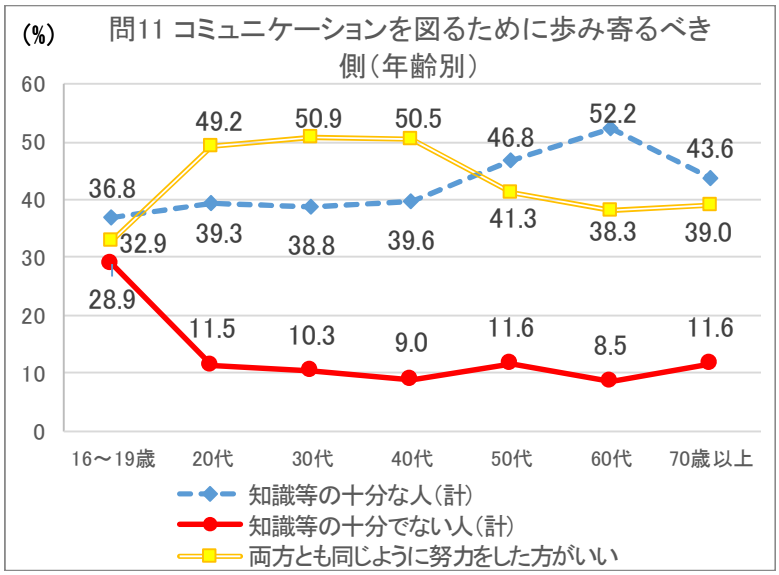
〔 全 体 〕

敬語を使うことが，人間関係を作っていくのに，かえってマイナスになってしまうと感じることが「ある」「時々ある」と答えた人(全体の 25.4%)に，それはどのようなときかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

「敬語を使っているために，相手との距離を縮めることができないとき」が 53.5%と最も高く，次いで「失礼があってはいけないと，ついつい敬語を使い過ぎてしまうとき」(33.4%)，「表現が遠まわしになり，言いたいことが伝わりにくくなるとき」(31.8%)がそれぞれ3割台前半，「敬語の使い方を間違えてはいけないと思い，言葉がうまく出てこないとき」(26.8%)，「型にはまった表現になり，自分の気持ちを込められないとき」(26.0%)がそれぞれ2割台半ばとなっている。

コミュニケーションを図るために歩み寄る努力をするのはどちらの側か＜問 11＞（P. 33）
―「知識等の十分な人」（44.3%(計)）が「知識等の十分でない人」（11.0%(計)）を大きく上回る―





〔 全 体 〕

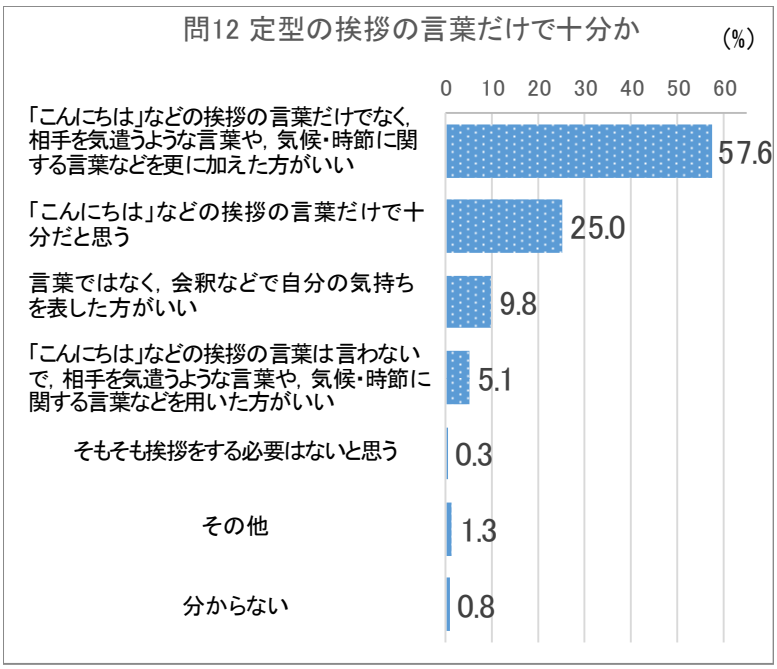
知識や経験，理解力が十分である人と十分でない人との間で，円滑なコミュニケーションを図るために歩み寄る努力をしなければならないのは，どちらの側だと思うかを尋ねた。

「どんな場面であっても，知識等の十分な人が努力をした方がいい」（16.1%）と「どちらかと言えば，知識等の十分な人が努力をした方がいい」（28.2%）を合わせた「知識等の十分な人（計）」は 44.3%となっている。一方，「どんな場面であっても，知識等の十分でない人が努力をした方がいい」（2.7%）と「どちらかと言えば，知識等の十分でない人が努力をした方がいい」（8.3%）を合わせた「知識等の十分でない人（計）」は 11.0%となっている。「両方とも同じように努力をした方がいい」は 42.8%となっている。

〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「知識等の十分な人（計）」は，60 代で他の年代より高く 52.2%となっている。「知識等の十分でない人（計）」は，16～19 歳で他の年代より高く 28.9%となっている。「両方とも同じように努力をした方がいい」は，20～40 代で他の年代より高く約5割となっている。

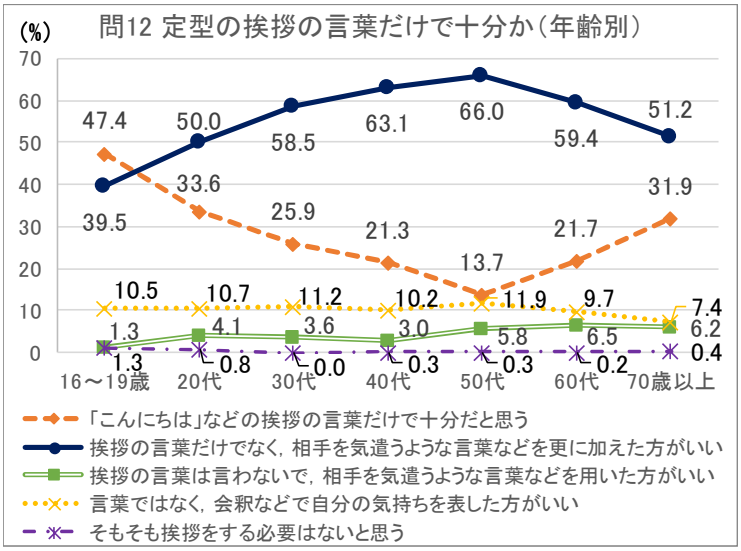
定型の挨拶の言葉だけで十分だと考えるか＜問 12＞（P. 35）
―「定型の挨拶の言葉だけでなく，相手を気遣うような言葉などを更に加えた方がいい」が６割弱 ―



〔 全 体 〕

ふだんの生活では「こんにちは」「おはようございます」「さようなら」など，決まった形の挨拶の言葉だけで十分だと考えるかを尋ねた。

「「こんにちは」などの挨拶の言葉だけでなく，相手を気遣うような言葉や，気候・時節に関する言葉などを更に加えた方がいい」が 57.6%と最も高く，次いで「「こんにちは」などの挨拶の言葉だけで十分だと思う」が 25.0%となっている。以下，「言葉ではなく，会釈などで自分の気持ちを表した方がいい」（9.8%），「「こんにちは」などの挨拶の言葉は言わないで，相手を気遣うような言葉や，気候・時節に関する言葉などを用いた方がいい」（5.1%）と続いている。



〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「「こんにちは」などの挨拶の言葉だけでなく，相手を気遣うような言葉や，気候・時節に関する言葉などを更に加えた方がいい」は，40～50 代で他の年代より高く6割台となっている。

「「こんにちは」などの挨拶の言葉だけで十分だと思う」は，20 代以下と 70 歳以上で他の年代より高く3～4割台となっており，特に 16～19 歳では，「「こんにちは」などの挨拶の言葉だけでなく，相手を気遣うような言葉や，気候・時節に関する言葉などを更に加えた方がいい」を上回っている。

具体的な三つの場面において，挨拶をするか＜問 13＞（P. 37）
―全ての場面において，挨拶を「する（計）」が，挨拶を「しない（計）」を大幅に上回る―

（数字は%）

	いつもする	することが多い	しないことが多い	いつもしない	職場に同僚はいない，又は，働いていない	分からない
(1) 職場（アルバイトやパートも含む）の人とその日初めて顔を合わせたとき	76.5	10.4	1.1	0.1	11.6	0.3
	する（計） 86.8		しない（計） 1.2			
	いつもする	することが多い	しないことが多い	いつもしない	近所の人に会う機会がない	分からない
(2) 近所の人とその日初めて顔を合わせたとき	69.3	23.4	4.7	0.6	1.9	0.0
	する（計） 92.7		しない（計） 5.3			
	いつもする	することが多い	しないことが多い	いつもしない	そういった場には行かない	分からない
(3) 各種習い事等の教室やセミナー，サークルなどにおいて，これまで会ったことのない人と初めて顔を合わせたとき	41.9	34.5	11.9	1.0	9.8	0.9
	する（計） 76.4		しない（計） 12.9			

〔 全 体 〕

三つの場面において，挨拶をするか，それぞれ尋ねた。

（1）職場（アルバイトやパートも含む）の人とその日初めて顔を合わせたとき

「いつもする」（76.5%）と「することが多い」（10.4%）を合わせた「する（計）」は 86.8%となっている。一方，「いつもしない」（0.1%）と「しないことが多い」（1.1%）を合わせた「しない（計）」は 1.2%となっている。また，「職場に同僚はいない，又は，働いていない」は 11.6%となっている。

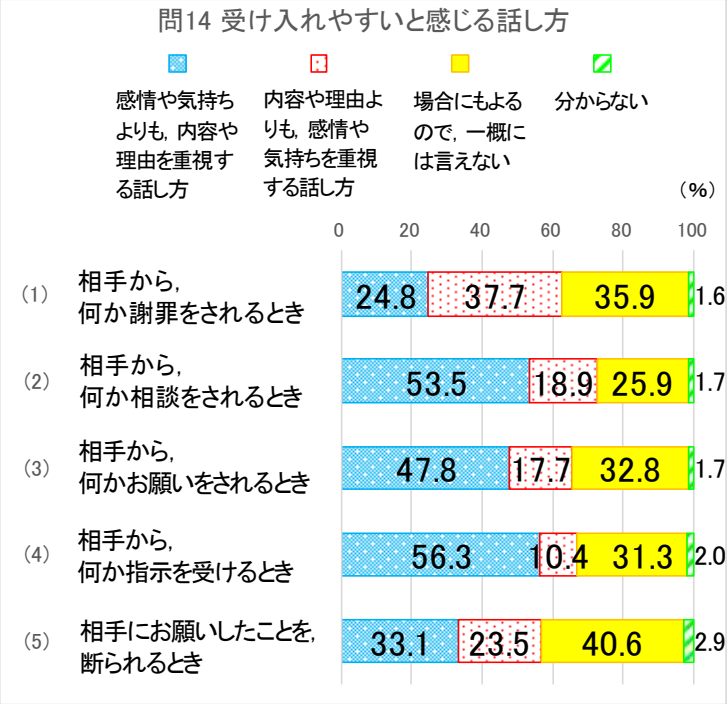
（2）近所の人とその日初めて顔を合わせたとき

「いつもする」（69.3%）と「することが多い」（23.4%）を合わせた「する（計）」は 92.7%となっている。一方，「いつもしない」（0.6%）と「しないことが多い」（4.7%）を合わせた「しない（計）」は 5.3%となっている。また，「近所の人に会う機会がない」は 1.9%となっている。

（3）各種習い事等の教室やセミナー，サークルなどにおいて，これまで会ったことのない人と初めて顔を合わせたとき

「いつもする」（41.9%）と「することが多い」（34.5%）を合わせた「する（計）」は 76.4%となっている。一方，「いつもしない」（1.0%）と「しないことが多い」（11.9%）を合わせた「しない（計）」は 12.9%となっている。また，「そういった場には行かない」は 9.8%となっている。

受け入れやすいと感じる相手の話し方はどちらか＜問 14＞（P. 40）
―(1)「謝罪をされるとき」には，「感情や気持ちを重視する話し方」が良いと４割弱が回答 ―



〔 全 体 〕

受け入れやすいと感じる相手の話し方はどちらか，五つの場面を挙げてそれぞれ尋ねた。

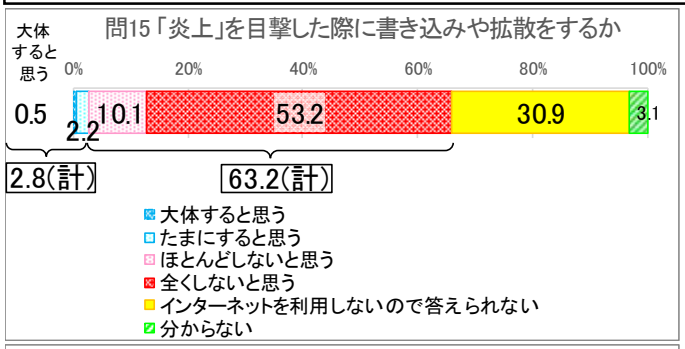
「感情や気持ちよりも，内容や理由を重視する話し方」は，「(4)相手から，何か指示を受けるとき」が 56.3%で最も高く，次いで「(2)相手から，何か相談をされるとき」が 53.5%となっている。

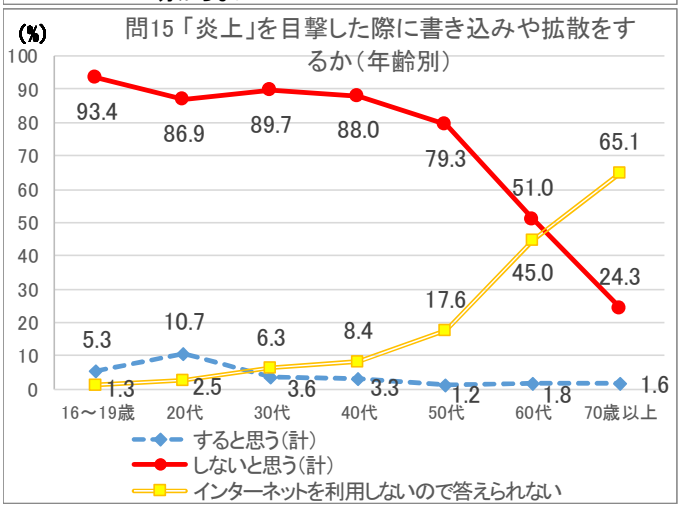
一方，「内容や理由よりも，感情や気持ちを重視する話し方」は，「(1)相手から，何か謝罪をされるとき」が 37.7%と最も高く，「感情や気持ちよりも，内容や理由を重視する話し方」を上回っている。次いで，「(5)相手にお願いしたことを，断られるとき」(23.5%)となっている。

また，「場合にもよるので，一概には言えない」は，「(5)相手にお願いしたことを，断られるとき」が 40.6%で最も高く，次いで，「(1)相手から，何か謝罪をされるとき」(35.9%)，「(3)相手から，何かお願いをされるとき」(32.8%)，「(4)相手から，何か指示を受けるとき」(31.3%)が3割台前半から半ばとなっている。

Ⅲ　情報化の中でのコミュニケーション

いわゆる「炎上」を目撃した際に書き込みや拡散をするか＜問 15＞（P. 43）
―「すると思う(計)」は，2.8%，ただし，20 代では 10.7%と他の年代に比べて高い―





〔 全 体 〕

インターネットの世界で，いわゆる「炎上」と呼ばれるような状況が生じることについて，そのようなサイトやアカウントに遭遇した場合，書き込みや拡散などを行うと思うかを尋ねた。

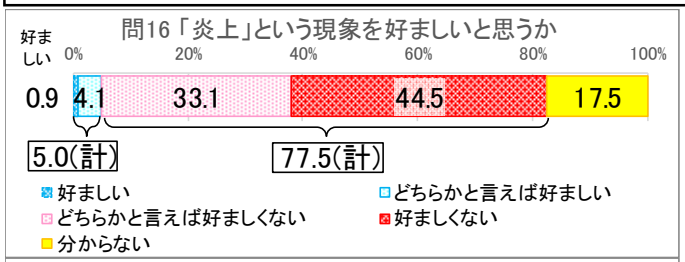
「大体すると思う」(0.5%)と「たまにすると思う」(2.2%)を合わせた「すると思う(計)」は 2.8%となっている。一方，「全くしないと思う」(53.2%)と「ほとんどしないと思う」(10.1%)を合わせた「しないと思う(計)」は 63.2%となっている。

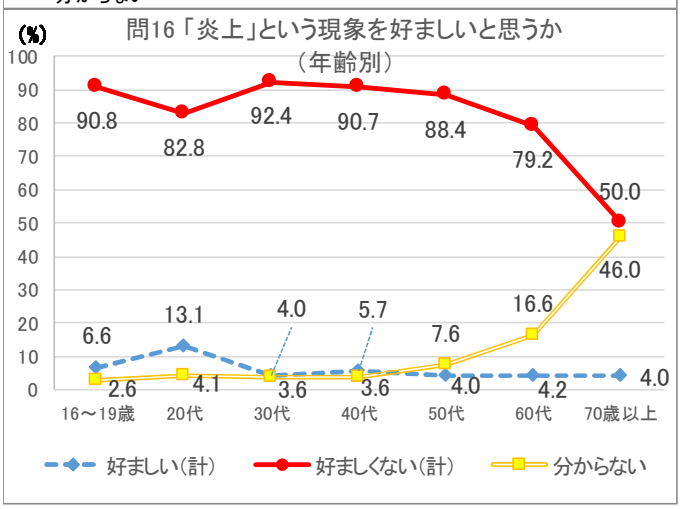
〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「すると思う(計)」は，20 代で他の年代より高く 10.7%となっている。一方，「しないと思う(計)」は，70 歳以上(24.3%)，60 代(51.0%)，50 代(79.3%)と年代が下がるに従って高くなる傾向があり，20～40 代で8割台後半，16～19 歳で 93.4%となっている。

「インターネットを利用しないので答えられない」は，年代が上がるに従って高くなり，60 代で 45.0%，70 歳以上で 65.1%となっている。

いわゆる「炎上」という現象を好ましいと思うか＜問 16＞（P. 45）
―「好ましい(計)」は 5.0%，「好ましくない(計)」は，77.5% ―





〔 全 体 〕

インターネットの世界におけるいわゆる「炎上」という現象に，世間の注目が集まり，騒がれる状況について，好ましいと思うか，それとも，思わないかを尋ねた。

「好ましい」(0.9%)と「どちらかと言えば好ましい」(4.1%)を合わせた「好ましい(計)」は 5.0%となっている。一方，「好ましくない」(44.5%)と「どちらかと言えば好ましくない」(33.1%)を合わせた「好ましくない(計)」は 77.5%となっている。

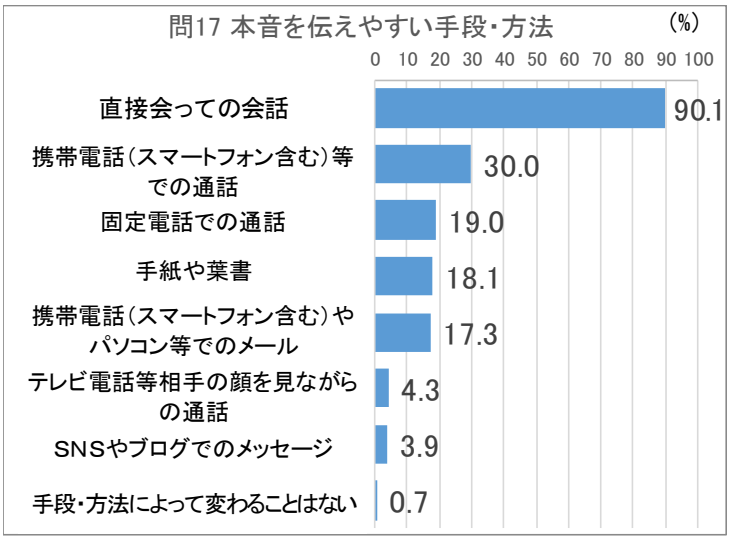
〔 年 齢 別 〕

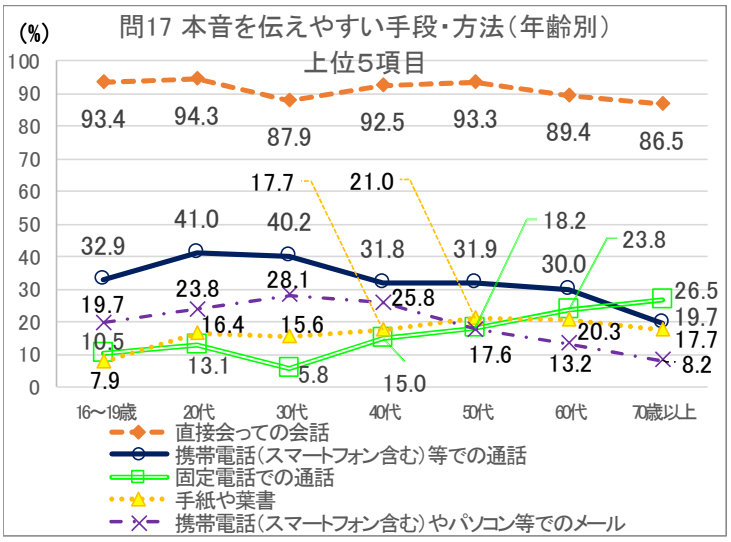
年齢別に見ると，「好ましい(計)」は，20 代で他の年代より高く 13.1%となっている。

「好ましくない(計)」は，16～19 歳と 30～50 代で他の年代より高く約9割となっている。

「分からない」は，年代が上がるに従って高くなる傾向があり，60 代で 16.6%，70 歳以上で 46.0%となっている。

最も親しい人に，自分の本音を伝えやすい手段・方法は何か＜問 17＞（P. 47）
―「直接会っての会話」が９割強，「携帯電話等での通話」が３割 ―





〔 全 体 〕

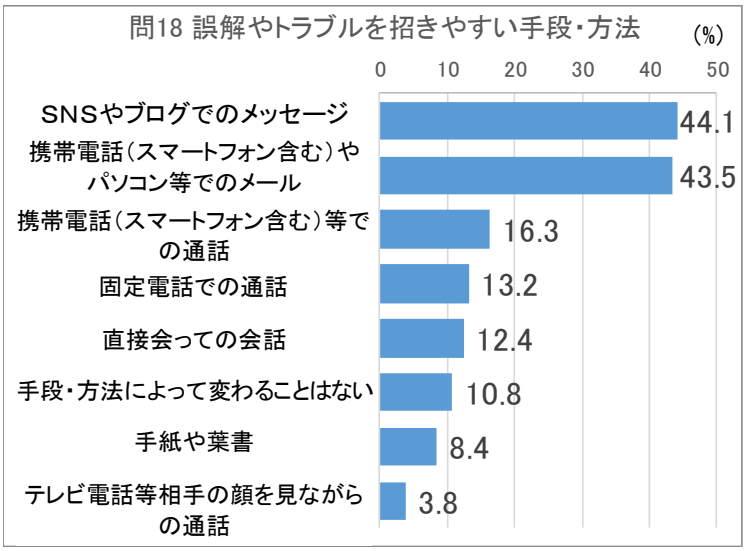
最も親しい人に自分の意見を述べる場合，自分の本音を伝えやすいと感じる手段・方法を尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「直接会っての会話」が 90.1％と最も高く，次いで，「携帯電話（スマートフォン含む）等での通話」が 30.0％となっている。以下，「固定電話での通話」（19.0％），「手紙や葉書」（18.1％），「携帯電話（スマートフォン含む）やパソコン等でのメール」（17.3％），「テレビ電話等相手の顔を見ながらの通話」（4.3％），「SNSやブログでのメッセージ」（3.9％）と続いている。

〔 年 齢 別 〕

回答の割合が高かった五つの選択肢を順に年齢別に見ると，「直接会っての会話」は，全ての年代で8割を超えている。「携帯電話（スマートフォン含む）等での通話」は，20～30代で他の年代より高く4割強となっている。「固定電話での通話」は，60 代以上で他の年代より高く2割台半ばとなっている。「携帯電話（スマートフォン含む）やパソコン等でのメール」は，20～40 代で他の年代より高く2割台半ばから2割台後半となっている。

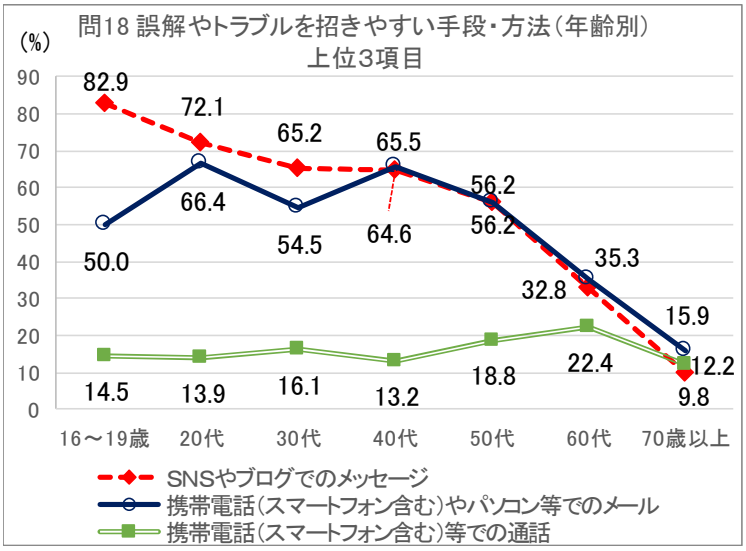
最も親しい人に対して，誤解やトラブルを招きやすいと感じる手段・方法は何か＜問 18＞（P. 49）
―「SNS やブログでのメッセージ」及び「携帯電話やパソコン等でのメール」が，４割台半ば ―



〔 全 体 〕

最も親しい人に対して，誤解やトラブルを招きやすいと感じる手段・方法を尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

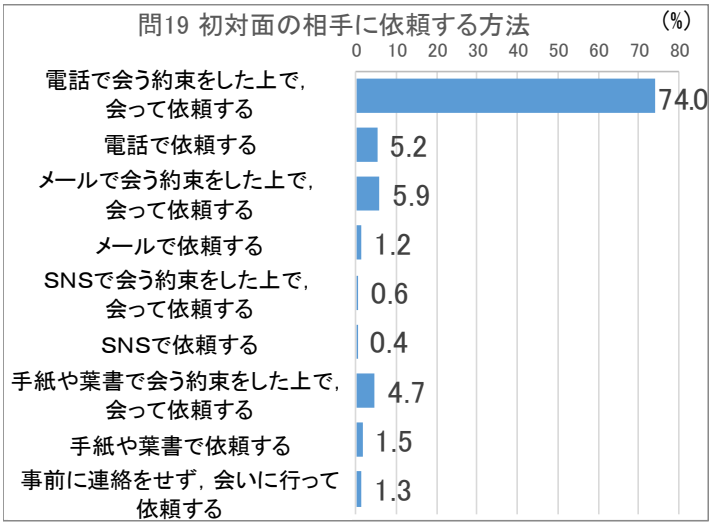
「SNSやブログでのメッセージ」が 44.1%と最も高く，次いで，「携帯電話（スマートフォン含む）やパソコン等でのメール」が 43.5%となっている。以下，「携帯電話（スマートフォン含む）等での通話」（16.3%），「固定電話での通話」（13.2%），「直接会っての会話」（12.4%），「手段・方法によって変わることはない」（10.8%），「手紙や葉書」（8.4%），「テレビ電話等相手の顔を見ながらの通話」（3.8%）と続いている。



〔 年 齢 別 〕

回答の割合が高かった三つの選択肢を順に年齢別に見ると，「SNSやブログでのメッセージ」は，年代が下がるに従って高くなり，50 代で 56.2%，30～40 代で 6 割台半ば，20 代で 72.1%，16～19 歳で 82.9%となっている。「携帯電話（スマートフォン含む）やパソコン等でのメール」は，50 代以下で 60 代以上より高く5割を超えている。「携帯電話（スマートフォン含む）等での通話」は 60 代で，他の年代より高く2割台前半となっている。

初対面の相手に対して，依頼する方法は何か＜問 19＞（P. 51）
―「電話で会う約束をした上で，会って依頼する」が，７割台半ば ―



〔 全 体 〕

今まで会ったことのない相手本人に対して，大切なことを依頼する場合，どのような方法がふさわしいと思うかを尋ねた。

「電話で会う約束をした上で，会って依頼する」が 74.0%と最も高く，次いで，「メールで会う約束をした上で，会って依頼する」（5.9%），「電話で依頼する」（5.2%），「手紙や葉書で会う約束をした上で，会って依頼する」（4.7%）となっている。

Ⅳ　書き言葉のコミュニケーション

文字で何かを伝える際，重視することは何か＜問 20＞（P. 54）
― 場面に応じて「分かりやすさ」「正確さ」「読み手の気持ちに配慮」など重視することが違う ―

（数字は%）	情報を分かりやすく伝えること	情報を正確に伝えること	読み手の気持ちに配慮して伝えること	自分の気持ちをはっきりと伝えること	その他	分からない
(1) 手紙やメールなどのやり取りで，個人的な内容を書くとしたら	31.5	23.6	21.2	20.5	0.5	2.6
(2) 報告書やレポート(宿題なども含む)を書くとしたら	33.3	50.5	5.3	5.8	0.2	4.8
(3) 不特定多数の人が読むインターネット上のブログや掲示板への書き込みをするとしたら	22.2	23.4	20.7	10.9	2.4	20.3

〔 全 体 〕

もし誰かに文字で何かを伝えようとするとしたら，重視するのはどんなことかを，「(1) 手紙やメールなどのやり取りで，個人的な内容を書くとしたら」「(2) 報告書やレポート(宿題なども含む)を書くとしたら」「(3) 不特定多数の人が読むインターネット上のブログや掲示板への書き込みをするとしたら」という三つの場合について尋ねた。

(1) では，「情報を分かりやすく伝えること」が 31.5%と最も高く，次いで，「情報を正確に伝えること」(23.6%)，「読み手の気持ちに配慮して伝えること」(21.2%)，「自分の気持ちをはっきりと伝えること」(20.5%)となっている。

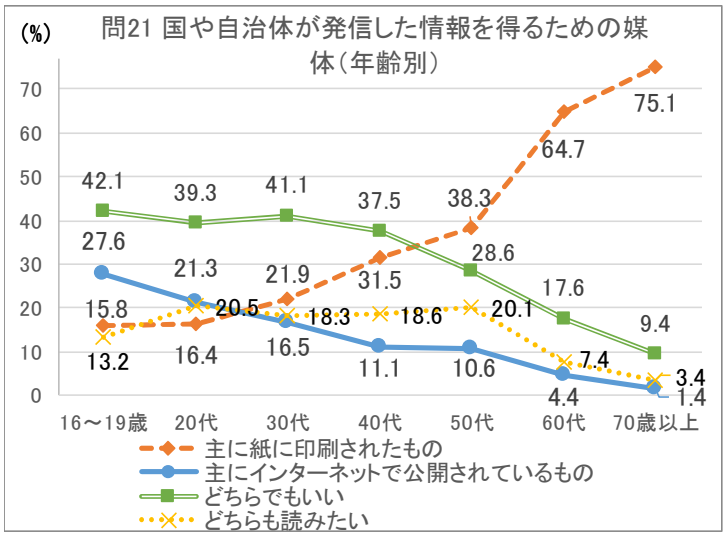
(2) では，「情報を正確に伝えること」が 50.5%と最も高く，次いで，「情報を分かりやすく伝えること」(33.3%)，「自分の気持ちをはっきりと伝えること」(5.8%)，「読み手の気持ちに配慮して伝えること」(5.3%)となっている。

(3) では，「情報を正確に伝えること」が 23.4%と最も高く，次いで，「情報を分かりやすく伝えること」(22.2%)，「読み手の気持ちに配慮して伝えること」(20.7%)，「自分の気持ちをはっきりと伝えること」(10.9%)となっている。

国や自治体が発信した情報を得るに当たって，どんな媒体で読みたいか＜問 21＞（P. 57）
―「主に紙に印刷されたもの」は年代が上がるに従って高くなっており，70 歳以上で 75.1% ―

（数字は%）

主に紙に印刷されたもの	主にインターネットで公開されているもの	どちらでもいい	どちらも読みたい	どちらも読まない	分からない
47.9	9.0	25.5	12.6	2.1	2.9



〔 全 体 〕

国や自治体の様々なお知らせを紙で読みたいと思うか，それともインターネットを通して読みたいと思うかを尋ねた。

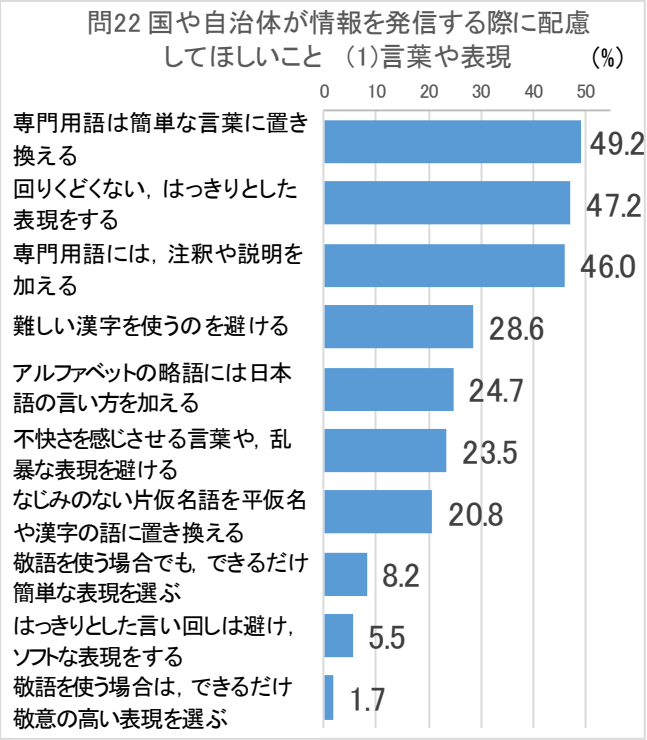
「主に紙に印刷されたもの」が 47.9%，「主にインターネットで公開されているもの」が 9.0%となっている。また，「どちらでもいい」が 25.5%，「どちらも読みたい」が 12.6%，「どちらも読まない」が 2.1%となっている。

〔 年 齢 別 〕

年齢別に見ると，「主に紙に印刷されたもの」は，年代が上がるに従って高くなっている。

一方，「主にインターネットで公開されているもの」は，年代が下がるに従って高くなり，20 代以下で「主に紙に印刷されたもの」を上回っている。「どちらでもいい」は，40 代以下で 50 代以上より高く約4割となっており，「主に紙に印刷されたもの」を上回っている。

国や自治体がお知らせなどの文章を書く際に，配慮してほしいことは何か＜問 22＞（P. 59）
― (1)言葉や表現などについては，「専門用語は簡単な言葉に置き換える」，「回りくどくない，はっきりとした表現をする」，「専門用語には，注釈や説明を加える」が，それぞれ4割台後半，
(2)表記や形式などについては，「読みやすくなるよう読点を用いる」が6割弱 ―

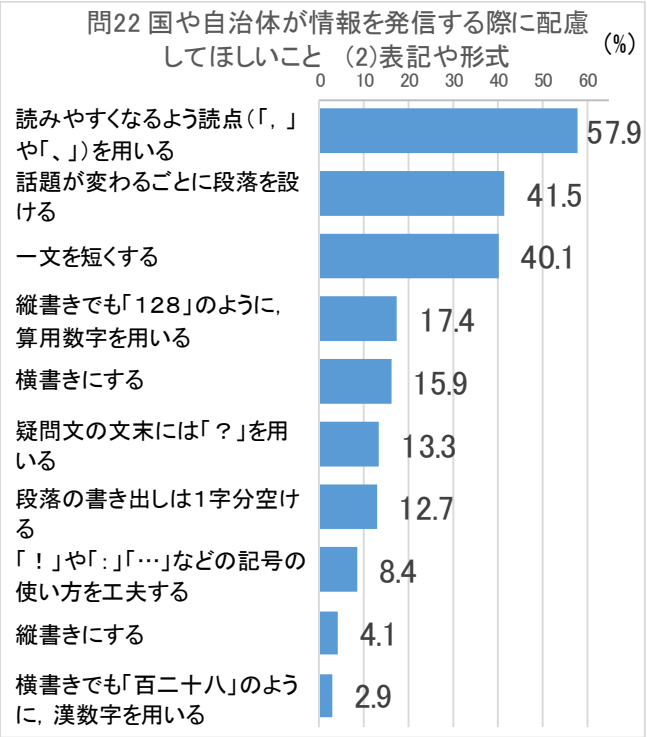


〔 全 体 〕

（1）言葉や表現などについて

国や自治体からの様々なお知らせなどの文章の言葉や表現などについて，どんなところに配慮して書いてもらいたいと思うかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「専門用語は簡単な言葉に置き換える」が 49.2%と最も高く，次いで「回りくどくない，はっきりとした表現をする」（47.2%），「専門用語には，注釈や説明を加える」（46.0%）がそれぞれ4割台後半となっている。



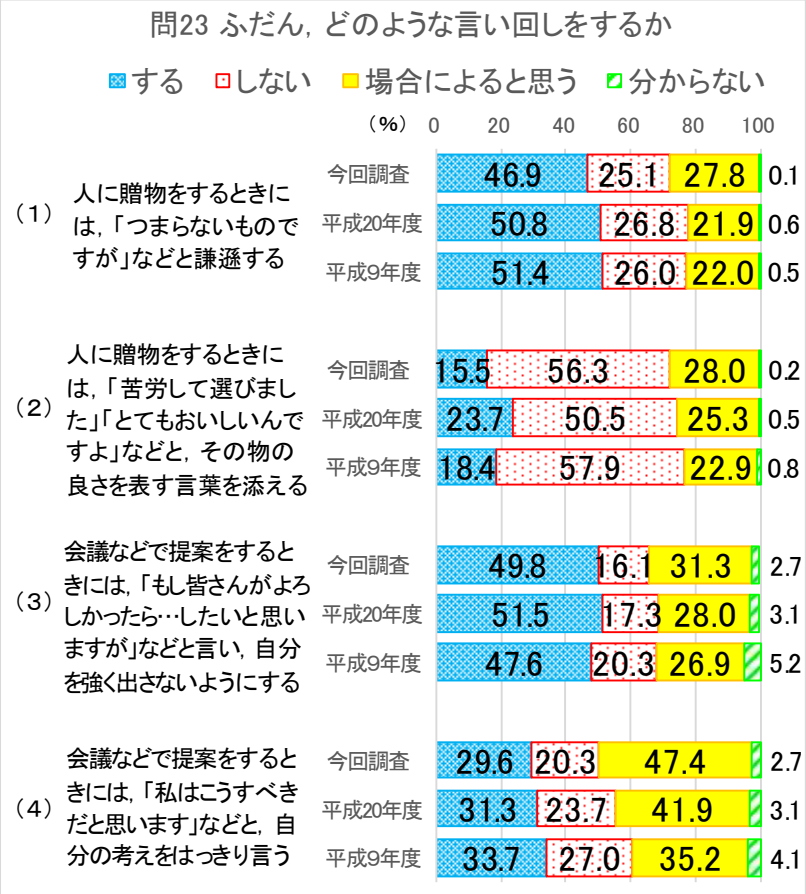
（2）表記や形式などについて

国や自治体からの様々なお知らせなどの文章の表記や形式などについて，どんなところに配慮して書いてもらいたいと思うかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「読みやすくなるよう読点（「，」や「、」）を用いる」が 57.9%と最も高くなっている。次いで「話題が変わるごとに段落を設ける」（41.5%），「一文を短くする」（40.1%）がそれぞれ4割強となっている。

Ⅴ　具体的な場面における言葉遣い

ふだん，どのような言い回しをするか＜問 23＞（P. 65）
―「(1)謙遜する」言い方が4割台半ばであるのに対し，「(2)その物の良さを表す」言い方は1割台半ば，また，「(3)自分を強く出さない」言い方が5割弱であるのに対し，「(4)自分の考えをはっきり言う」言い方は3割強弱―



〔 全体・過去の調査との比較 〕

人に贈物をするときや，会議などで提案をするときの言い回しについて，二つずつ計四つの例を挙げ，それぞれについて，するかしないかを尋ねた。

（1）人に贈物をするときには，「つまらないものですが」などと謙遜する

「する」が 46.9%，「しない」が 25.1%，「場合によると思う」が 27.8%となっている。

過去の調査結果（平成9，20 年度）と比較すると，平成9年度調査から平成20年度調査に掛けては余り変化が見られないが，平成 20 年度調査から今回調査では「する」が 4 ポイント，「しない」が 2 ポイント減少し，「場合によると思う」が6ポイント増加している。

（2）人に贈物をするときには，「苦労して選びました」「とてもおいしいんですよ」などと，その物の良さを表す言葉を添える

「する」が 15.5%，「しない」が 56.3%，「場合によると思う」が 28.0%となっている。

過去の調査結果（平成9，20 年度）と比較すると，「する」は平成9年度調査から平成 20 年度調査に掛けて5ポイント増加しているが，平成 20 年度調査から今回調査で8ポイント減少している。「しない」は平成9年度調査から平成 20 年度調査に掛けて7ポイント減少しているが，平成 20 年度調査から今回調査で 6 ポイント増加している。「場合によると思う」は平成9年度調査から増加傾向にある。

（3）会議などで提案をするときには，「もし皆さんがよろしかったら……したいと思いますが」などと言い，自分を強く出さないようにする

「する」が 49.8%，「しない」が 16.1%，「場合によると思う」が 31.3%となっている。

過去の調査結果（平成9，20 年度）と比較すると，「する」は平成9年度調査から平成 20 年度調査に掛けて4ポイント増加しているが，平成 20 年度調査から今回調査で2ポイント減少している。「しない」は平成9年度調査から減少傾向にあり，「場合によると思う」は増加傾向にある。

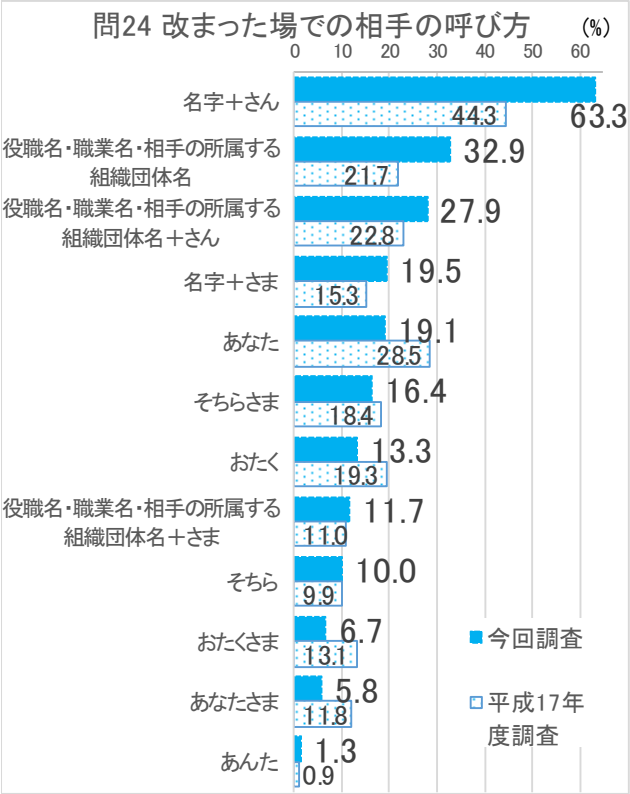
（4）会議などで提案をするときには，「私はこうすべきだと思います」などと，自分の考えをはっきり言う

「する」が 29.6%，「しない」が 20.3%，「場合によると思う」が 47.4%となっている。

過去の調査結果（平成9，20 年度）と比較すると，「する」「しない」は共に減少傾向にあるが，「場合によると思う」は増加傾向にある。

改まった場で，それほど親しくない相手をどう呼ぶか＜問 24＞（P. 69）

―「名字＋さん」が 19 ポイント，「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名」が 11 ポイントそれぞれ増加，一方，「あなた」は9ポイント，「おたく」「おたくさま」「あなたさま」はいずれも6ポイントそれぞれ減少 ―



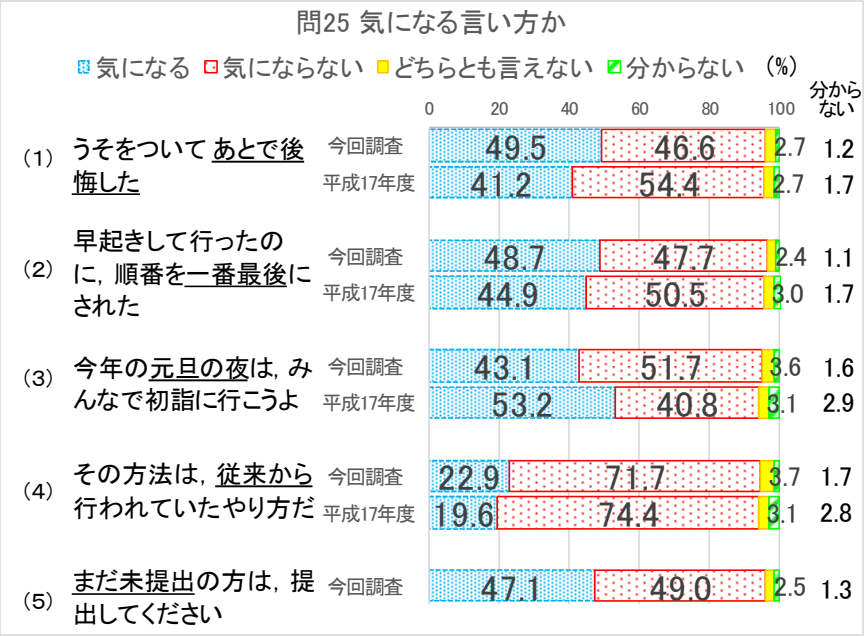
〔 全 体 〕

改まった場で，それほど親しくない相手のことを言うとき，どんな言葉を使うかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「名字＋さん」が 63.3％と最も高く，次いで「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名（課長・先生・○○銀行等）」（32.9％），「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名（課長・先生・○○銀行等）＋さん」（27.9％）となっている。

過去の調査結果（平成 17 年度）と比較すると，「名字＋さん」は 19 ポイント，「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名（課長・先生・○○銀行等）」は 11 ポイント，「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名（課長・先生・○○銀行等）＋さん」は5ポイント，「名字＋さま」は4ポイントそれぞれ増加している。一方，「あなた」は9ポイント，「そちらさま」は2ポイント，「おたく」「おたくさま」「あなたさま」はいずれも6ポイント減少している。

気になる言い方か＜問 25＞（P. 72）
―「あとで後悔」「一番最後」「従来から」という言い方で，「気になる」が増加 ―



〔 全体・過去の調査との比較 〕

「あとで後悔した」，「一番最後」，「元旦の夜」，「従来から」，「まだ未提出」の五つの言い方を挙げて，その言い方が気になるか，それとも気にならないかを尋ねた。

(1) うそをついてあとで後悔した

「気になる」が 49.5％で，「気にならない」(46.6％)を3ポイント上回っている。

過去の調査結果(平成 17 年度)と比較すると，平成 17 年度調査結果では「気にならない」(54.4％)が「気になる」(41.2％)を 13 ポイント上回っていたが，今回調査では「気になる」が8ポイント増加，「気にならない」が8ポイント減少し，「気になる」が「気にならない」を上回っている。

(2) 早起きして行ったのに，順番を一番最後にされた

「気になる」が 48.7％，「気にならない」が 47.7％となっている。

過去の調査結果(平成 17 年度)と比較すると，平成 17 年度調査結果では「気にならない」(50.5％)が「気になる」(44.9％)を6ポイント上回っていたが，今回調査では「気になる」が4ポイント増加，「気にならない」が3ポイント減少し，「気になる」が「気にならない」を上回っている。

(3) 今年の元旦の夜は，みんなで初詣に行こうよ

「気になる」が 43.1％で，「気にならない」(51.7％)を9ポイント下回っている。

過去の調査結果(平成 17 年度)と比較すると，平成 17 年度調査結果では「気になる」(53.2％)が「気にならない」(40.8％)を 12 ポイント上回っていたが，今回調査で「気になる」が 10 ポイント減少，「気にならない」が 11 ポイント増加し，「気にならない」が「気になる」を上回っている。

(4) その方法は，従来から行われていたやり方だ

「気になる」が 22.9％で，「気にならない」(71.7％)を 49 ポイント下回っている。

過去の調査結果(平成 17 年度)と比較すると，「気になる」は3ポイント増加しているが，「気にならない」は3ポイント減少している。

(5) まだ未提出の方は，提出してください

「気になる」が 47.1％，「気にならない」が 49.0％となっており，「気にならない」が「気になる」を上回っている。

Ⅵ　新しい表現や，慣用句等の意味・言い方

聞いたこと，使ったことがある表現か＜問 26＞（P.76）
―「目が点になる」は 46.4%，「心が折れる」は 43.3%が「使うことがある」と回答―

（数字は%）

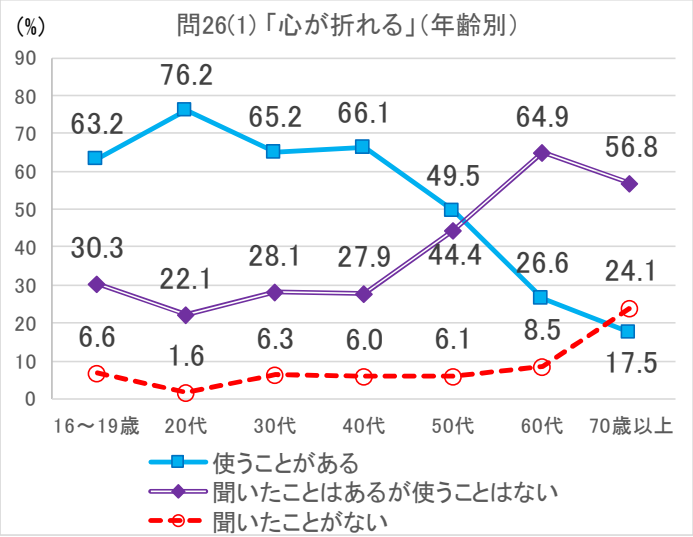
	使うことがある	聞いたことはあるが使うことはない	聞いたことがない	分からない
(1)心が折れる	43.3	45.5	10.8	0.4
(2)目が点になる	46.4	41.2	12.1	0.3
(3)あさっての方を向く	28.7	56.2	14.5	0.5
(4)背筋が凍る	38.0	54.6	6.9	0.4
(5)毒を吐く	28.9	54.7	15.9	0.5

〔 全 体 〕

表に挙げた五つの表現について，聞いたことがあるか，使ったことがあるか尋ねた。

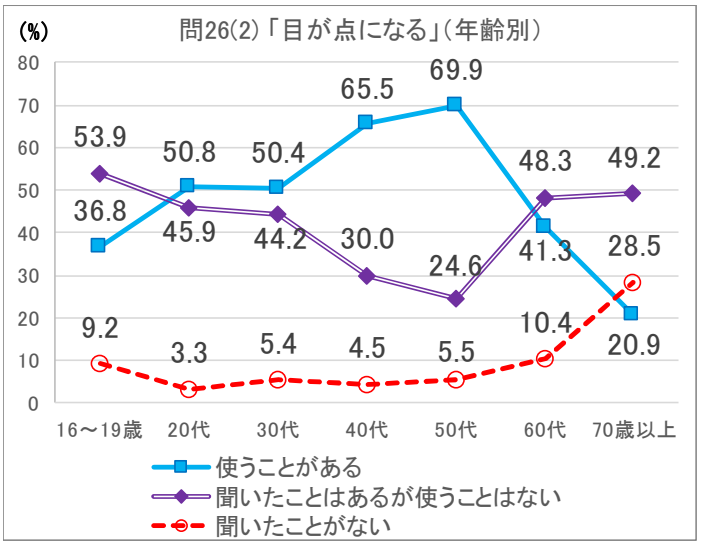
「使うことがある」は，「(2)目が点になる」が 46.4%と最も高く，次いで，「(1)心が折れる」(43.3%)，「(4)背筋が凍る」(38.0%)となっている。一方，「聞いたことがない」は，「(5)毒を吐く」が 15.9%と最も高く，次いで，「(3)あさっての方を向く」(14.5%)となっている。

〔 年 齢 別 〕



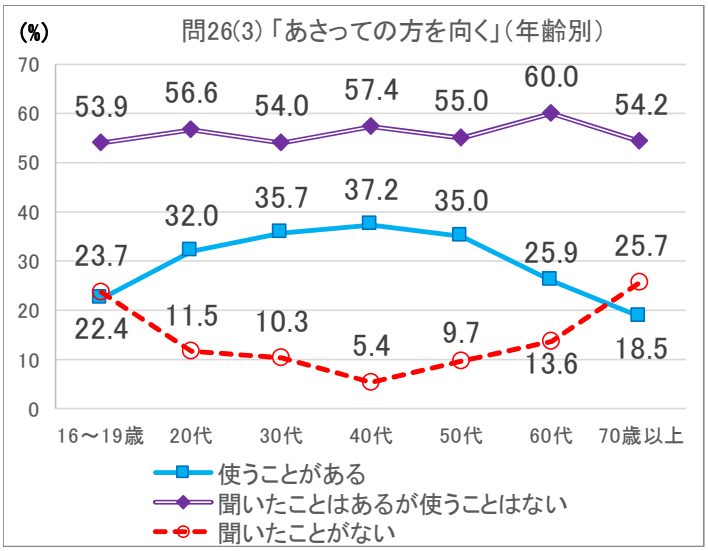
（1）心が折れる

年齢別に見ると，「使うことがある」は，40 代以下で他の年代より高く6割を超えている。「聞いたことはあるが使うことはない」は，60 代以上で他の年代より高く5割を超えており，「使うことがある」を上回っている。「聞いたことがない」は，70 歳以上で他の年代より高く 24.1%となっている。



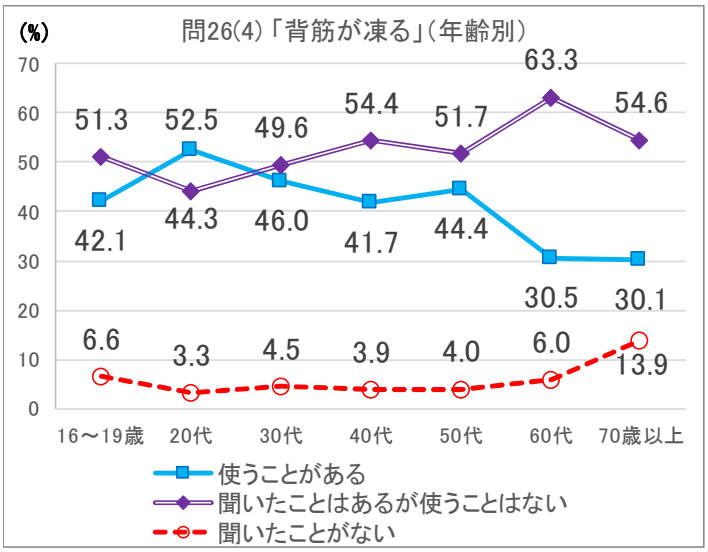
（2）目が点になる

年齢別に見ると，「使うことがある」は，40～50 代で他の年代より高く6割台後半となっている。「聞いたことはあるが使うことはない」は，16～19 歳と 60 代以上で他の年代より高く5割弱から5割台前半となっており，「使うことがある」を上回っている。「聞いたことがない」は，70 歳以上で他の年代より高く 28.5%となっている。



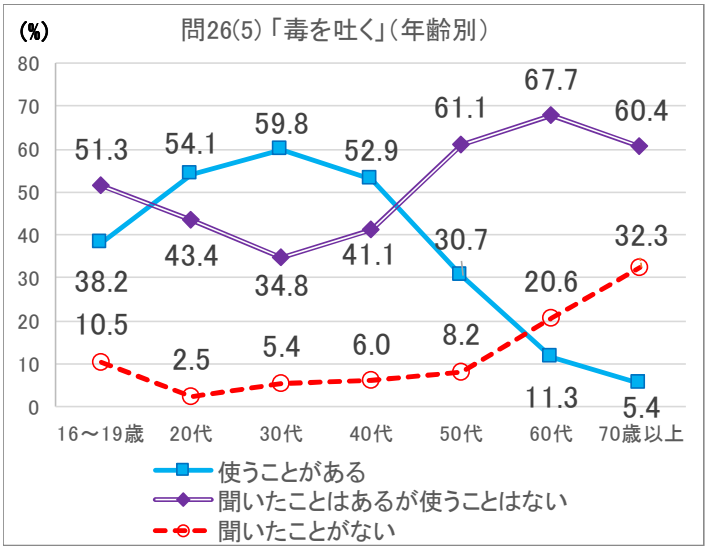
(3) あさっての方を向く

年齢別に見ると,「使うことがある」は, 30～50代で他の年代より高く3割台後半となっている。「聞いたことがあるが使うことはない」は, 60 代(60.0%)を除く全ての年代で5割台半ばから5割台後半となっている。「聞いたことがない」は, 16～19 歳と 70 歳以上で他の年代より高く2割台半ばとなっている。



(4) 背筋が凍る

年齢別に見ると,「使うことがある」は, 50 代以下で 60 代以上より高く4割以上となり, 20 代で最も高く 52.5%となっている。「聞いたことはあるが使うことはない」は, 60 代で他の年代より高く63.3%となっている。「聞いたことがない」は, 70歳以上で他の年代より高く 13.9%となっている。



(5) 毒を吐く

年齢別に見ると,「使うことがある」は, 20～40代で他の年代より高く5割台となっており,「聞いたことはあるが使うことはない」を上回っている。「聞いたことはあるが使うことはない」は, 50 代以上で他の年代より高く6割台となっている。「聞いたことがない」は, 60 代以上で他の年代より高く2～3割台となっている。

どちらの意味だと思うか＜問 27＞(P.80)

―「さわり」,「ぞっとしない」は，共に5割台半ばが，本来の意味とは違うとされる方を回答―

（数字は%）

(1)さわり （例文：話のさわりだけ聞かせる。）	平成 28 年度	19 年度	15 年度
（ア）：話などの要点のこと	**36.1**	35.1	31.1
（イ）：話などの最初の部分のこと	53.3	55.0	59.3
（ウ）：（ア）と（イ）の両方	4.5	2.7	3.9
（エ）：（ア），（イ）とは，全く別の意味	1.8	0.2	0.8
分からない	4.3	7.0	4.8

(2)ぞっとしない （例文:今回の映画は，余りぞっとしないものだった。）	平成 28 年度	18 年度
（ア）：面白くない	**22.8**	31.3
（イ）：恐ろしくない	56.1	54.1
（ウ）：（ア）と（イ）の両方	4.2	2.4
（エ）：（ア），（イ）とは，全く別の意味	11.0	2.4
分からない	5.9	9.8

(3)知恵熱 （例文：知恵熱が出た。）	平成 28 年度
（ア）：乳幼児期に突然起こることのある発熱	**45.6**
（イ）：深く考えたり頭を使ったりした後の発熱	40.2
（ウ）：（ア）と（イ）の両方	6.9
（エ）：（ア），（イ）とは，全く別の意味	4.5
分からない	2.7

〔全体・過去の調査との比較〕

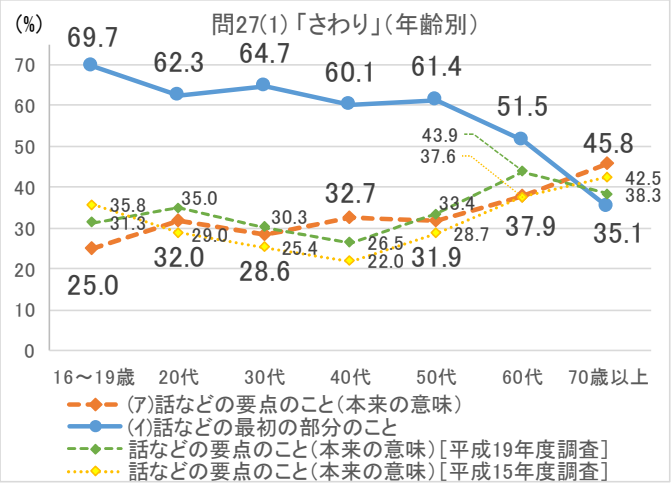
表に挙げた三つの慣用句等について，どちらの意味だと思うか尋ねた。なお，辞書等で**主に本来の意味とされるものをゴシック体**で記した。

今回尋ねた慣用句のうち，「(1)さわり」及び「(2)ぞっとしない」は，本来の意味とは違うとされる方が多く選択されるという結果となっている。

一方，「(3)知恵熱」は，本来の意味とされる方が多く選択されるという結果となっている。

過去の調査結果((1)は平成 15,19 年度，(2)は 18 年度)と比較すると，本来の意味とは違うとされる方を選択した割合が，「(2)ぞっとしない」では2ポイント増加している。一方，「(1)さわり」では減少傾向にある。

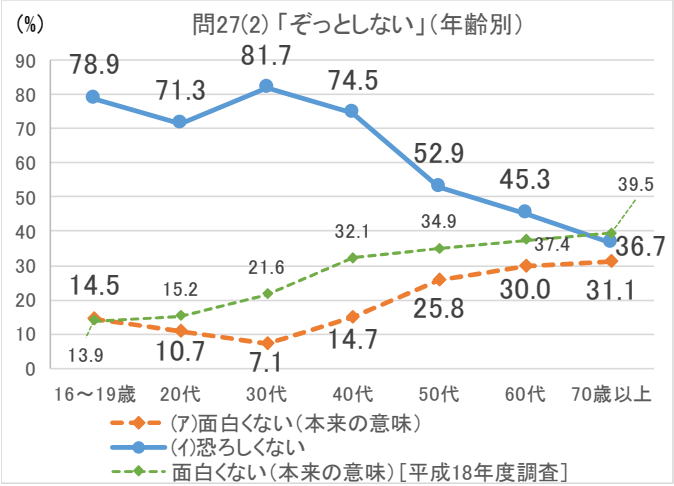
〔年齢別・過去の調査との比較〕　**※本来の意味とされるものは点線（- - -）で表示した。**



（１）さわり

年齢別に見ると，本来の意味とされる「話などの要点のこと」は，70 歳以上で「話などの最初の部分のこと」を上回り，45.8%と最も高くなっている。

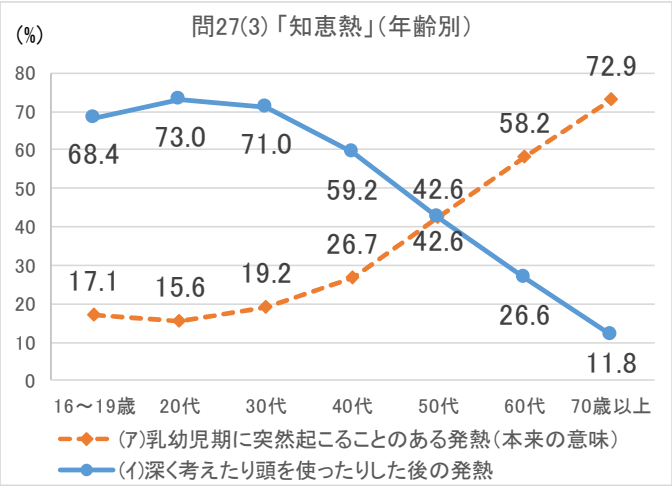
過去の調査結果(平成 15,19 年度)と比較すると，余り変化は見られない。



（２）ぞっとしない

年齢別に見ると，本来の意味とされる「面白くない」は，60 代以上で他の年代より高く約3割となっているが，全ての年代において，「恐ろしくない」より下回っている。

過去の調査結果(平成 18 年度)と比較すると，本来の意味とされる「面白くない」は，16～19 歳を除く全ての年代で5～17 ポイント減少している。



（３）知恵熱

年齢別に見ると，本来の意味とされる「乳幼児期に突然起こることのある発熱」は，60 代以上で，「深く考えたり頭を使ったりした後の発熱」を上回っており，70 歳以上で72.9%と最も高くなっている。一方，「深く考えたり頭を使ったりした後の発熱」は年代が下がるに従って高くなる傾向にあり，20 代で 73.0%と最も高くなっている。

どちらの言い方を使うか＜問 28＞(P.84)
―本来の言い方とされる「足をすくわれる」「存亡の機」を使う割合は，少ない―

（数字は%）

(1)「はっきりと言わない曖昧な言い方」を	平成28 年度	17 年度
(ア)：「(a)口を濁す」を使う	17.5	27.6
(イ)：「(b)言葉を濁す」を使う	**74.3**	66.9
(ウ)：(a)と(b)の両方とも使う	3.9	3.1
(エ)：(a)と(b)のどちらも使わない	3.4	
分からない	1.4	2.4
(2)「卑劣なやり方で，失敗させられること」を	平成28 年度	19 年度
(ア)：「(a)足下をすくわれる」を使う	64.4	74.1
(イ)：「(b)足をすくわれる」を使う	**26.3**	16.7
(ウ)：(a)と(b)の両方とも使う	1.9	1.6
(エ)：(a)と(b)のどちらも使わない	6.0	5.5
分からない	1.4	2.1
(3)「存続するか滅亡するかの重大な局面」を	平成28 年度	
(ア)：「(a)存亡の機」を使う	**6.6**	
(イ)：「(b)存亡の危機」を使う	83.0	
(ウ)：(a)と(b)の両方とも使う	2.3	
(エ)：(a)と(b)のどちらも使わない	4.8	
分からない	3.4	

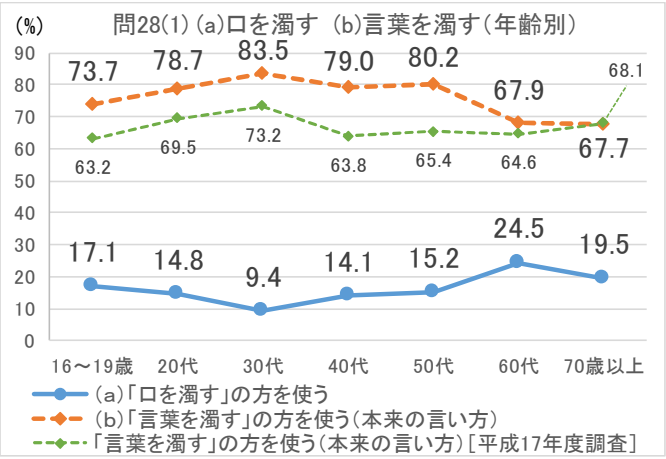
〔全体・過去の調査との比較〕

表に挙げた三つの慣用句等について，どちらの言い方を使うかを尋ねた。なお，辞書等で**主に本来の言い方とされているものをゴシック体**で記した。

今回尋ねた三つの慣用句等のうち，本来の言い方とされる(2)「(b)足をすくわれる」，(3)「(a)存亡の機」を使う割合は，それぞれ，本来の言い方とされていない(2)「(a)足下をすくわれる」，(3)「(b)存亡の危機」を大きく下回っている。

過去の調査結果((1)は平成 17 年度，(2)は平成 19 年度)と比較すると，本来の言い方とされている方を選択している割合が，それぞれ(1)「(b)言葉を濁す」では7ポイント，(2)「(b)足をすくわれる」では 10 ポイント増加している。

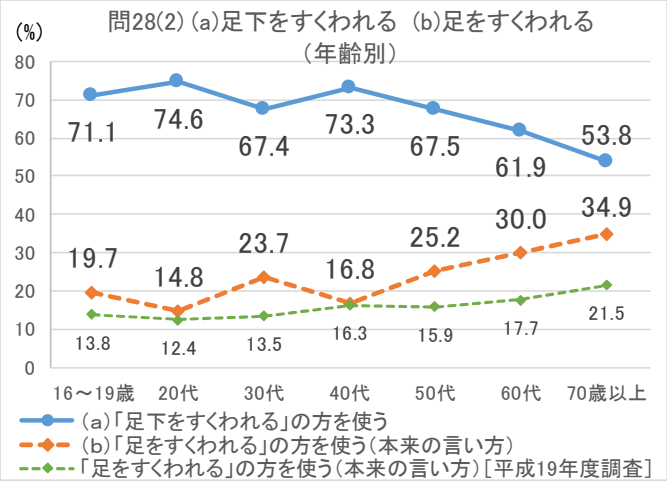
〔年齢別・過去の調査との比較〕　**※本来の言い方とされるものは点線（- - -）で表示した。**



（１）口を濁す／言葉を濁す

年齢別に見ると，本来の言い方とされる「(b)言葉を濁す」は，全ての年代で「(a)口を濁す」を上回っており，30 代で最も高く 83.5%となっている。「(a)口を濁す」は，60 代(24.5%)で最も高く，次いで 70 歳以上(19.5%)となっている。

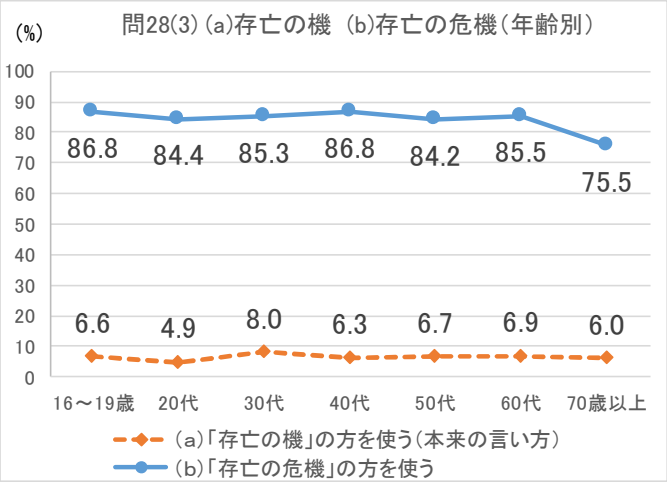
過去の調査結果(平成 17 年度調査)と比較すると，本来の言い方とされる「(b)言葉を濁す」は，70 歳以上を除く全ての年代で3～15 ポイント増加している。



（２）足下をすくわれる／足をすくわれる

年齢別に見ると，本来の言い方とされる「(b)足をすくわれる」は，70 歳以上で最も高く34.9%となっている。「(a)足下をすくわれる」は，50 代以下で6割台後半から7割台半ばとなっており，本来の言い方とされる「(b)足をすくわれる」を，全ての年代で 19～60 ポイント上回っている。

過去の調査結果（平成 19 年度）と比較すると，本来の言い方とされる「(b)足をすくわれる」は，全ての年代において増加しており，70 歳以上でその差は 13 ポイントと最も大きくなっている。



（３）存亡の機／存亡の危機

年齢別に見ると，本来の言い方とされる「(a)存亡の機」は，全ての年代で1割未満となっており，「(b)存亡の危機」を 70～81 ポイント下回っている。「(b)存亡の危機」は，70 歳以上（75.5%）を除く全ての年代で8割台半ばとなっている。